

国際理解講座「マラウイという国を知っていますか？」

東大和市内にお住まいの方が、青年海外協力隊、シニア海外ボランティアとして活動されています。
平成22年7月10日（土）中央公民館にて、青年海外協力隊の活動を終え帰国された中央在住の上杉友紀さんに、その貴重な体験をお話していただきました。

【講師について】

青年海外協力隊18年度第3次隊として、マラウイにコンピュータ技術の支援のため2年間派遣された。現在は、日本でSE（システムエンジニア）として働いている。

派遣先の具体的な業務は、運輸公共事業省の陸運局本部（免許センターと陸運局が合体したようなところ）のコンピューターシステムのメンテナンス。

マラウイは小さな国であるため、様々な国からの援助でコンピューターシステムが導入されている。電源が入らない、ハードウェアの交換など作業を通じて、ノウハウを伝授してきた。それに加えてコンピューター・プログラミングやサーバーの構築等スキルアップにつながるよう技術的な紹介も行ってきた。帰国して1年、マラウイでの生活は楽しかった。

【基本情報】

国名：マラウイ共和国（大統領制）

アフリカ大陸 赤道の南 南緯11度から17度あたりに位置している。

赤道からの距離としては、フィリピンと同じくらい。

面積：11万平方キロメートル

南北に細長く、九州と北海道を合わせたくらいの広さ。

気候：熱帯のサバンナ気候

公用語：英語、チェワ語

6才になると小学校で英語を習い、チェワ語を国語として学習する。現地言葉を合わせると3つの言語が話せる人が多い。

首都：リロングウェ 45万人くらいが住む

1960年建国当初は南部に首都があったが、1970年代に現在の場所に移転。

人口：約1400万人（東京都の人口と同じくらい）

宗教：クリスチャン（8割）、イスラム教徒（2割）

通貨：クワチャ（1クワチャ≒1円） 補助通貨：タンバラ（1クワチャ=100タンバラ）

初任給6000クワチャ≒6000円くらい

お札の状態は悪く流通によって穴が開いていたり、1/3くらい破れて無いものもある。お札に描かれている人物は独立の志士ジョン・チレンブウェ（牧師）で、金額が違っていても皆同じ人が描かれている。



平均寿命：日本の約半分。5歳未満児の死亡率が10人に1人と高く、食べ物が悪いというよりは医療・衛生事情が原因。

HIV（エイズ）の感染率は、15～20%で、緩やかに上昇している。地域によって差があるが、湖沿いは感染率が高くなる。宗教上の理由で、避妊しない人が多い。専門機関に行けば無料でコンドームを配布しているが、病気から体を守ることよりも、避妊する事自体に抵抗感があるようだ。

【名所について】

- ・ユネスコの世界遺産として2か所登録されている

《マラウイ湖国立公園》

マラウイ湖は淡水で、世界で11番目に大きい湖。国土の15%を占めている。

ビルハルツ住血吸虫（寄生虫）がいる。

《チョンゴニの岩絵》

2006年末文化遺産として登録。山の中にあつて保存状態があまり良くない。



- ・マラウイといえば、マドンナが2007年にマラウイの孤児院にいたデビッドちゃんを養子に迎えたことで有名。

【青年海外協力隊について】

日本政府の予算（政府開発援助＝ODA）の中で行われている国の事業（事業仕分けの対象になっている）。

隊員になれる条件→日本国籍を保有している20才～39才の人（青年海外協力隊）

// 40才～69才の人（シニアボランティア）

青年海外協力隊・シニアボランティアともに、派遣前には候補生として60日間の訓練がある。

活動内容は、途上国の発展や復興に関する寄与。

「草の根運動」・・・現地の人と同じ物を食べ、同じ場所に住んで、同じ目線で活動する。

ケネディが発案したピースコー（青年海外協力隊のアメリカ版）を真似て1960年代から活動。75カ国2600人が海外で活動。

《分野》・農林水産 農業（トマト、米など換金作物）の指導

- ・保健衛生 看護師（HIV予防の啓発など）

以前は医師の派遣もあったが、医療事故などの責任所在の問題があり、現在は中止されている。

- ・教育文化 理数科教師

- ・スポーツ 柔道等

- ・計画行政

マラウイで活動している日本人は、主に青年海外協力隊員、青年海外協力隊事務局のスタッフ、援助機関スタッフで100人前後はいる。

【マラウイの人たちについて】

- ・マラウイの人たちは、自動車や電化製品、ゲーム等の会社で日本のことをよく知っている。

- 陽気で気さくな人たち。街中でいろんな人が話しかけてくる。
- おしゃべり好き 仕事でも、日陰でジュースを飲みながら1日中お話ししている。
- カメラが大好き マーケットの中でデジカメで撮って見せると喜ぶ。「自分も撮って！」と寄ってくる。
- 全体的に太っている人が多い。お家が裕福だという証として、ぽっちゃりした女性が好まれる。
- マラウイ人のオシャレ 髪がクセ毛のため、エクステンション（つけ毛）をつけて、それを編んでオシャレしている。
- 女性の一般的な服装は、上はTシャツ、下はチテンジ（木綿でできた大きな布）を腰に巻く。赤ちゃんを包んでスリングのように使ったり、貴重品を巻き込んだりして使用する。チテンジは正装とされているので、結婚式やお葬式にも巻いていく。冠婚葬祭の内容によって色や柄の指定は無い。

《映像》 チェワ語で話す マラウイのおばさん達と隊員との会話風景

《映像》 北部トゥンブカ語で話す マラウイのおじさんと隊員の会話風景

【食事について】

代表的な料理：シマ（メイズの粉を練って作る“そばがき”のようなもの）



メイズとはとうもろこしの一種で、日本では家畜の飼料になっている。甘くはないが、茹でたり焼いたりして食べたりもできるが、とても硬い。他にも、カボチャの葉を大量の油で炒めたもの、ウシパ（小魚）とトマトを大量の油で炒めたもの、チキンの炭火焼、マラウイ湖で捕れたお魚のグリル、フィッシュ&チップスな

シマの作り方：①メイズの粉にお湯を加えて、ティコ（木の棒）でかき混ぜる。

②粘り気が出るまで、空気を入れて一生懸命にこねる。

③取り分ける。

マラウイの人は調理中によくこぼす。“もったいない”という概念がない。

シマ以外にお米も食べるが、シマの方が腹持ちが良いと現地の人は言う。

- 職場の裏庭で、みんなでお金を出しあって材料を買い調理して昼食をとる。
- 調味料は塩のみ。コショウなど香辛料は高いので使わない。
- コーヒーは沢山の砂糖を入れて飲む。
- 食べる時は、右手で手掴みで。食卓にはフィンガーボウルが置かれる。

《映像》 マラウイの結婚披露宴の様子

市内にあるサッカー場にひな壇を設営し開催。

参列者は踊りながらお金（ご祝儀）をまく。それを新郎新婦がバケツを持って回収する。

司会者が「新郎の職場の人出てらっしゃい！」等と言うと音楽が流れて、1曲が終わるまでの間にまき終わらなければ縁起が良いとされている。ご祝儀の目標金額が設定されていて、達しないと司

会者があおったりする。最終的に回収したご祝儀の金額について発表がある。披露宴では、お酒はいっさい出されず、ソフトドリンクや軽食程度が振舞われるが、誰でも参加できるため、すぐに無くなってしまう。このお金をまくというスタイルは、ここ20～30年くらいの風習のようだ。

【政治・経済について】

マラウイには戸籍制度が無い。選挙については、ヴィレッジヘッド（村長）が会合で有権者を報告して数を確定する。人口も同様にして推計で出している。

住民税は無いが、付加価値税（VAT）17.5%という消費税に近いものがある。

主な産業は農業（メイズ、たばこ）で、たばこについては輸出品の80%を占めている。

その他の産業としては、2008年末に北部でウラン鉱脈が見つかり、オーストラリアが開発を進めている。新聞によれば、商業ベースにのるのは2010年から。

ウランの輸出により外貨を稼ぎたいところだが、核物質の輸送という点で周辺国との調整が必要である。

【生活について】

電化率は10%くらい。首都でも事前に告知をした上で時間帯・地域ごとに停電し、電力を確保している。地方では、薪か炭を使用している。

首都には上水道があるが、下水道は無い。雨季はよく断水になる。

郊外では、住居のレンガは土を固めて焼いただけ。水道は無く、井戸水を使う。

トイレは穴を掘って、そこがいっぱいになったら別の場所に穴を掘って移動。

農地はヴィレッジ・ヘッドから借り受けて耕す。

都市部の住宅地は、政府に申請し借り受ける。

治安はアフリカの中では良い方だが、夜は街灯が無くひったくり（強盗）が出る。

【交通について】

ミニバス（ワゴン車）が主要な交通手段。中古車を改装し、20人が寿司詰め状態で400キロくらい移動することもある。

道路の舗装率は45%で、交通事故が多い。道路標識があまり無いため、ドライバーの経験が頼り。地方に行くと、マトーラと呼ばれているトラックの荷台に30人ほど乗せて移動。荷台から落ちないように隣の人と腕を組んで乗る。

チャリマト（自転車タクシー）は、自転車の二人乗りで荷台にクッションが載っているだけというもの。のぼり坂になると、お客さんも自転車から降りて押すことになる。

鉄道はあるが、客車は週1日のみ200キロ程度の長さ。ただし、首都リロングウェは通らない。

空港は小さなものを入れると44か所あり、そのうち国際線があるのは2か所。

日本からは、香港→南アフリカ→マラウイというルートで所要時間は27～28時間。飛行機は毎日飛んでいる。この他にドバイ経由エチオピアまわりで行く方法もある。

【女性の社会的地位について】

家庭の中では男性中心だが、社会進出という面では日本よりも進んでいる。職場に占める女性の割合も半数、女性管理職も多い。都市部と地方とでは差がある。